みどりを育む

横造協だより

発　行　Vol.31
一般社団法人　横浜市造園協会
広報委員会
横浜市中区尾上町1-6　住友生命横浜関内ビル７階
TEL 045-662-9897　FAX 045-664-5633
http://www.yokohamashizoen.or.jp

横浜市長　林　文子

横浜の魅力と緑

横浜市造園協会の皆様には、日頃から、公園の整備、維持管理、街路樹の育成管理や、横浜みどりアップ計画をはじめとする緑化の推進など、本市の緑をつくり、育てる取組にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

横浜市は、都市としての魅力と存在感を一層高めるため、街の賑わいづくり、観光ＭＩＣＥ振興につながる文化芸術の力を生かしたまちづくりを、重要施策に掲げています。

今年は、日本・中国・韓国の３か国において、文化芸術による発展を目指す「東アジア文化都市事業」の日本初の開催都市として、年間を通じて多彩な文化イベントを展開します。

国内にとどまらず、アジアにおける文化芸術活動に関わる「人、モノ、情報」の交流拠点都市を目指し、夜景創出や野外コンサートなど、横浜ならではの魅力や文化的資産を生かした事業、交流・協働を主とした事業、クールジャパン戦略に沿ったエンターテイメントイベント等を行います。秋には、３年に一度の現代アートの祭典・ヨコハマトリエンナーレも開催し、多様な文化を発信し、まちの賑わいを創出していきます。

ＭＩＣＥ都市としての評価も益々高まってきており、今年３月には、地球温暖化に関する世界の知見が集まる「ＩＰＣＣ総会」が日本で初めて、ここ横浜で開催されます。環境未来都市として取り組んでいる、横浜みどりアップ計画、ヨコハマｂプランなど、横浜の多角的な取組を広く発信するチャンスです。

世界各国からお越しになるお客様からは、横浜の街の清潔さ、美しさを称賛する言葉をいただいています。街の魅力、賑わいの源泉である緑にあふれる美しい横浜の街並みを、横浜市造園協会の皆様が支えてくださっています。改めて感謝申し上げます。

みどりアップ計画（森づくりボランティア養成講座）

「緑豊かなまち横浜」を次世代へ

みどり行政

横浜みどりアップ計画

「横浜みどりアップ計画」では、21年度から横浜みどり税を財源として積極的に活用し、鋭意、様々な事業・取組を進めてきました。とりわけ、施策の根幹である緑地保全制度による樹林地の指定は、計画前の５倍以上のスピードで進め、年間平均約１００ヘクタールを保全することができました。

26年度からも、これまでの取組を発展させるよう、30年度までの５か年の計画「横浜みどりアップ計画（計画期間：平成26―30年度）」を策定しました。継続させていただくことになったみどり税を、安定的な財源として活用しながら、事業・取組をしっかりと進めていきます。

緑地保全制度による樹林地の指定では、今までの実績や効果などを踏まえ、５年間で５００ヘクタールの新規指定を目標とするなど、「市民とともに次世代につなぐ森を育む」取組を、一層推進します。

また、良好な農景観の保全や農とふれあう場づくりなど、「市民が身近に農を感じる場をつくる」取組を推進します。

さらに、都心臨海部の公園での緑や花による魅力・賑わいづくりや、これまで緑が少なかった地域での緑の創出など、「市民が実感できる緑をつくる」取組を、強化して実施します。

効果的な広報の展開についても施策の体系に位置づけ、様々な手法・媒体を用いて、緑の役割や施策の内容などを市民の皆様にお知らせすることにより、関心を高め、理解を深めていきたいと考えています。

緑あふれる都市で暮らす豊かさを、市民の皆様に実感していただけるよう、引き続き力を注いでいきます。

全国都市緑化フェア

横浜には、開港の歴史とともに育まれてきた美しい公園をはじめ、郊外部の里山など、まちの中に豊かな緑があり、お住まいの方々だけでなく、横浜を訪れる多くの方々にこよなく愛されています。

全国都市緑化フェアは、緑豊かな都市で生活できることを誇りに思う意識を醸成するとともに、美しいまちの魅力を広く国内外にアピールする、またとない機会です。平成29年春の開催を目指し、山下公園やグランモール公園の活用など、横浜らしさあふれる花と緑で多くのお客様をお迎えし、都市の魅力を広く発信していけるよう、検討を進めています。

公園の整備

公園事業では、花月園競輪場跡地や、旧小柴貯油施設、戸塚区舞岡町の用地の活用など、大規模な公園の新設整備を、具体的に進めます。良好な自然環境や歴史性など、それぞれの土地の特性を生かすとともに、地域の方々をはじめ、広く市民の皆様のご意見をお聞きしながら整備内容を検討し、できるだけ早期に市民の皆様が利用できるよう事業を進めます。

また、よこはま動物園ズーラシアの最後のエリアである、東アフリカの広大な草原を再現した「アフリカのサバンナ」を27年春に全面オープンします。

横浜市造園協会の皆様には、いつも丁寧で質の高い公園づくりを進めていただいており、昨年の都市公園コンクールにおいても、南希の森緑地が国土交通省都市局長賞を受賞することができました。これからの公園整備においても、より一層のお力添えをくださいますよう、お願い申し上げます。

また横浜市は、３年前の東日本大震災の発生以降、防災・減災施策の強化に全力を注いできました。市内の多くの公園が、大規模災害からの「広域避難場所」や、一時的な避難場所、あるいは自治会・町内会の集合場所である「いっとき避難場所」に位置付けられています。応援部隊が救助活動を行うための活動拠点や、ヘリコプターの離着陸場になっている公園もあります。昨年策定した「横浜市地震防災戦略」に基づき、公園の防災機能の強化や、身近な公園の整備を引き続き進めるなど、災害に強いまちづくりを着実に進めていきます。

よこはま動物園ズーラシア
アフリカのサバンナ（バードショー）

おわりに

今年、横浜市は新たな中期計画を策定していきます。「誰もが安心と希望を実感でき、人も企業も輝く横浜」の実現を目指し、都市の未来を切り拓く戦略を描き、明確な目標のもと着実に施策を前進させます。

また、市内企業の大多数を占める中小企業の皆様への支援や、消費増税対策はもちろんのこと、「成長分野育成ビジョン」で、横浜経済の活性化を加速させます。

都市の発展を支える基盤整備も重要です。横浜の顔である、魅力あふれる、都心臨海部の再生・活性化を促進するとともに、誰もが安心して暮らし続けられる郊外部のまちづくりに、果敢に取り組んでいきます。

そして「緑豊かなまち横浜」を次世代に引き継いでいくためには、横浜市造園協会の皆様のお力が不可欠です。ご一緒に横浜の未来を切り拓いてまいりましょう。

■■略　歴■■

１９４６年東京都生まれ。東京都立青山高等学校卒業。東洋レーヨン㈱（現東レ）、松下電器産業㈱（現パナソニック）等勤務の後、１９７７年ホンダの販売店に入社。１９８７年ＢＭＷ㈱東京事業部（現ＢＭＷ東京）入社。その後、ファーレン東京㈱（現フォルクスワーゲンジャパン販売株式会社）代表取締役社長、ＢＭＷ東京㈱代表取締役社長、㈱ダイエー代表取締役会長 兼 ＣＥＯ、日産自動車株式会社 執行役員、東京日産自動車販売㈱ 代表取締役社長等を歴任。

平成26年 新年賀詞交歓会を開催

1月10日にホテル横浜ガーデンにおいて平成26年新年賀詞交歓会を開催した。

横浜市長　林文子様、市会議長　佐藤祐文様、副市長　鈴木伸哉様、技監　友田勝己様、環境創造局長　荻島尚之様、政策局長　小林一美様、資源循環局長　大熊洋二様、建築局長　坂和伸賢様、道路局長　手塚文雄様、自民党国会市会議員の先生方はじめ多数のご来賓にご参会いただいた。

緑の保全・創出積極的に

横浜市造園協会会長　生駒　隆

新年あけましておめでとうございます。

昨年は、安倍政権によるデフレ脱却を目指す大胆な金融緩和や大規模な財政出動、経済成長戦略など景気回復へ明るい兆しがみられるようになり、また東京オリンピックの決定など期待と希望を繋ぐ年となりました。今年は造園建設業界をとりまく経営環境が大きく改善し、持続的な発展を見通すことの出来る年になることを期待しております。

横浜市にみどり税の条例が再び認められました。横浜には歴史の中で育まれてきた、山下公園や日本大通りなど、都市臨海部の緑豊かな街並み、樹林地農地で構成される郊外の里山など緑の環境が存在します。横浜みどり税を財源にして、大切な緑の保全・創出を横浜市造園協会は皆様と共に積極的に進めて行きたいと思っております。

公共事業においても、陳情要望等により最低制限価格の見直し、公共工事・労務単価の引き上げなど切実な問題が改善されました。しかし労務費・資材費の急騰による採算性の悪化や労働力不足もあり、依然として厳しい経営環境におかれています。

この様な状況下の中で当協会は技術・技能の継承や将来に向けての人材確保など、雇用環境の改善に努めてまいります。まだまだ不安定な時代ではありますが、当協会は災害対応など地域貢献活動や、環境緑化の専門家として横浜の公園緑地・街路樹を育み守ってまいります。

最後になりましたがご臨席いただきました皆様方のご多幸ご健勝を祈念いたしまして新年のあいさつといたします。

都市の魅力支える緑の保全

横浜市長　林　文子

あけましておめでとうございます。皆様には緑に溢れる美しい横浜の街並みを力強く支えていただいておりまして、本当に感謝申し上げます。

昨年は皆様のご支援により、横浜の街に一層の賑わいが生まれた年でした。6月に開催された「第5回アフリカ開発会議」も成功裏に終わり、アフリカからのお客様に横浜の街は大変美しいと言っていただきました。これも皆様のお力添えがあっての事だと思います。また、この会議に先立ち、一部オープンしましたズーラシアの「アフリカのサバンナ」は、多くの方に好評をいただいており、現在全面オープンに向けて作業を進めております。

そして街の賑わいに大きく貢献したのが、昨年春の東急東横線と東京メトロ副都心線の相互直通運転の開始です。多くの方が横浜を訪れてくださり、中華街などは大変な賑わいだったと伺いました。昨年一年間のホテルの平均稼働率は実に85％にまで高まりました。景気回復の基調が確かなものになりつつあり、この流れの中で横浜も経済成長の為に施策を進めてまいりたいと思います。2020年のオリンピック・パラリンピックの東京開催は、横浜の存在感を示すチャンスでもあり、皆様とご一緒に、このチャンスをつかんでいきたいと思います。

横浜市はコンベンション事業も非常に盛んになっています。3月には地球温暖化問題に関する世界の知見が集まる大規模コンベンション「IPPC総会」が日本で初めて横浜で開催されます。この夏には、5回目となる現代アートの祭典・横浜トリエンナーレが開催されます。また多くの市民の皆様が待ち望んでおられた、横浜でのフルマラソンが、いよいよ来年の3月に実現します。

そして大切なのが、都市の魅力を支える緑の保全創出です。「横浜みどりアップ計画」については、先月の市会でみどり税の継続を承認いただきました。市民の皆様の期待にお応えする為、樹林地の保全、都心臨海部での緑の創出など、次期計画の推進に力を注いでまいります。また横浜ならではの「全国都市緑化フェア」の開催を目指し検討を行ってまいります。花月園競輪場跡地、旧小柴貯油施設など、大規模な公園の新設整備を確実に進めたいと思います。市民の皆様の心豊かな暮らしには、緑溢れる環境が必要です。変わらぬお力添えをよろしくお願い申し上げます。

結びに横浜市造園協会様の益々のご発展とご活躍、そしてご来会の皆様のご健勝をお祈り申し上げまして、私の新年の挨拶とさせていただきます。

横浜市造園技術交流会

第29回工事安全パトロール

実施日　1月30日（木）

目的　本工事安全パトロールは、その交流事業の一環として、主に環境創造局発注工事の現場における安全管理の状況を合同で点検し、更なる安全管理体制の強化を図るために実施する。

合同で巡視を行うことで、現場の安全管理状況、問題点を把握し、的確に是正指導等の処置を取り、問題（災害等）の発生の未然防止を図ると共に、官民相互の安全管理に関するレベルアップに繋げることを目的とする。

点検対象　公園緑地整備課発注2箇所

出席者　横浜市造園技術交流会　幹事4名、監督員2名、事務局2名　当協会　安全委員会8名

実施状況

現場1

各点検箇所において、監督員より工事概要の説明を受けた後、現場巡視班と安全書類確認班に分かれ、施工中の安全確保・安全施設の状況を中心に点検を行った。

工事範囲が限られる中、複数の工事が錯綜しているため、よりいっそうの整理整頓を行い、確実に安全確保を行う必要等が指摘された。標識類や書類については、よく整えられていた。

現場2

遊水地構造部の開口部が大きい部分の落下防止措置が十分に図られていない点や、標識類について施工中にバリケードを移設した際に、標識類が外から見ることができない位置に移設されていた点が指摘された。

これから工事の進捗に伴い、より安全管理には十分な配慮が必要とされる状況だった。

安全パトロール

委託パトロール

実施日　10月23日（水）

目的　事故防止について会員会社に更なる注意喚起を呼びかけるため、10月15日から31日までを「安全強化期間」とし、協会独自でパトロールを行う。

出席者　安全委員会6名

点検対象　街路4件・公園1件

改善事項

・歩行者への配慮の必要性
・燃料等の不適切な保管（ガソリンは携帯缶を利用する等）
・消火器・薬箱の配置

講評

細部に渡り安全管理された模範となる現場がある一方で、不備のある現場があった。

歩行者の安全確保、件名板の配置の問題や作業車の輪留めの不備。また、作業員のヘルメット等の着用義務について安全管理の重要性の再認識の必要性が感じられた。

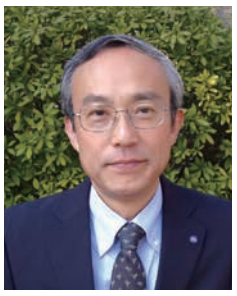
対象会社について、是正処置の完了報告書の提出を求めた。

評価事項

・車止めが必要
・保安機材の不足
・作業員の保護具の必要性
・作業看板の掲示不備
・歩道の安全確保の不備
・交通整理員の配置

横浜みどりアップ計画
（計画期間：平成26－30年度）の取組について

横浜市環境創造局みどりアップ推進部
みどりアップ推進課長・槇　重善



平成21～25年度の取組

横浜市は、大都市でありながら、身近な場所に水や緑の環境があります。この緑の環境を次世代に引き継いでいくため、「横浜市水と緑の基本計画」に基づき、横浜らしい水・緑環境の実現に向け、これまでも様々な取組を展開してきました。

平成21年度からは、市民の皆様にご負担いただいている横浜みどり税を財源の一部として活用し、「横浜みどりアップ計画（新規・拡充施策）」を重点的な取組として進めてきました。

「樹林地を守る」施策では、緑地保全制度による地区指定を計画以前の5倍以上のスピードで進め、概ね500ヘクタールの樹林地が長期的に保全できました。また、みどり税を活用し、指定地での買い取り希望に確実に対応し100ヘクタールをこえる樹林地を恒久的に保全することができました。これらは、従来の緑地保全に関する事業予算に加え、横浜みどり税を安定的な財源として活用したことによる大きな成果です。

樹林地の保全（川和特別緑地保全地区）

「農地を守る」施策では、市内に残る水田の保全を大きく進め、身近な田園風景、谷戸の環境の保全を図りました。横浜固有の生物の生息環境の保全、大雨の際の流出抑制といった防災面でも大きな効果がある取組です。また、市民の皆様が農に親しめる場の確保として、農園付公園の整備など新たな取組を進めました。

「緑をつくる」施策では、地域の皆様が主体となって行う具体的な地域の緑化計画づくり、緑化事業の支援を進めました。みなとみらい21中央地区での商業施設の大規模な壁面緑化で、街を歩く人が緑を楽しめるように整備したものなど、今後のまちづくりと連携した地域緑化計画が実現されつつあります。

また、保育園・幼稚園の園庭、小中学校の校庭の芝生化では、管理技術の支援などこれまでに行き届かなかったソフト面の対応も進めています。

平成26～30年度の取組

横浜市は、これまでのみどりアップ計画の取組の成果や課題、市民意識調査、市民意見などをふまえ、「みんなで育むみどり豊かな美しい街　横浜」を計画理念として「横浜みどりアップ計画（計画期間：平成26～30年度）」を25年12月にまとめました。

「横浜みどり税」については、平成26年度から30年度までの5か年、市民の皆様に引き続きご負担をお願いし、この計画の重要な財源の一部として活用していきます。

市民とともに次世代につなぐ森を育む

施策の根幹である緑地保全制度による樹林地の指定では、これまでの指定実績や効果を踏まえ、5年間で500ヘクタールの新規指定を目標とします。今後は樹林地の維持管理助成を拡充し、森づくりガイドライン等を活用して、地域ごとの樹林地を地域の皆様と保全、育成管理する取組を強化します。生物多様性の保全、良好な景観形成など横浜の森の質の向上をめざします。さらに、こうした活動に参加してくださる方々の研修や講座の開催を通し、森を育む人材の育成や、市民が森に関わるきっかけづくりを行います。

園庭芝生化（中区　錦保育園）

市民が身近に農を感じる場をつくる

都市に潤いをもたらす水田など農景観の保全を進めるとともに、農園付公園の整備など、農とふれあう場づくりをさらに進めます。また、地産地消の推進を農家の皆様と企業の連携を図りながら推進します。

市民が実感できる緑をつくる

市民協働による緑のまちづくりでは、継続して支援を行うとともに、緑の少ない地区で緑を創出する取組を強化します。区役所など公共施設の緑化を進め、民有地の緑化助成を拡充します。さらに、土地利用転換の機会に用地を確保して公園として緑を創出する取組を計画しています。

子どもたちの成長に重要な保育園など子どもを育む空間の緑の創出として、芝生化に加え、花壇、屋上・壁面緑化、生きものとふれあうビオトープづくりまで多様な緑化の取組を支援していきます。

いきいきとした街路樹づくりは、特に、都心臨海部の街路樹や区の代表的な街路樹について、高木の剪定に加え、低木の刈込や除草などの管理をより充実させます。

さらに、都心臨海部の公園や公共空地で緑や花による緑化を積極的に進め、都心臨海部の魅力向上、賑わいづくりに貢献します。

効果的な広報の展開

多様な媒体・手段を用いて計画の実績、効果を市民の皆様が実感できるよう工夫していきます。今後とも、事業を通した広報の取組に御協力をお願いいたします。

おわりに

横浜のまちは、ここに育つ子どもたちのふるさとととして、誇りを感じることのできるまちでなければいけないと思います。

横浜市造園協会会員の皆様が培ってきた造園、景観づくり、公園管理運営の技術力をこれからの横浜市の公園、緑地保全、街路樹育成管理の事業の中で発揮していただけますよう、より一層の御協力をお願い申し上げます。

平成25年度　横浜市優良工事表彰

10月29日ワークピア横浜において、平成25年度横浜市優良工事表彰式が行われた。

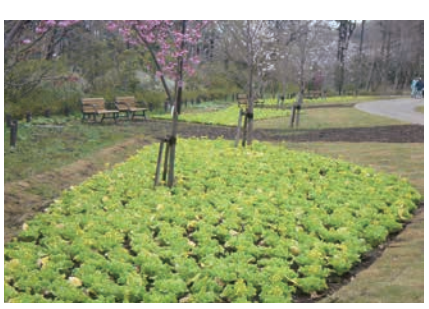
適正な工事の施工・施工技術の向上および施工者の意欲の向上を目的として、横浜市が発注した工事を優秀な成績で施工した施工会社48社及び現場責任者66名が表彰された。ここに土木・造園部門で受賞した作品（①会社名②工事箇所名③現場代理人氏名）及び技術者を紹介する。

施工会社表彰

①櫻井造園土木㈱
①㈱新正園
②新本牧公園施設改良工事
③長谷川　稔

①相武造園土木㈱
②横浜自然観察の森施設改良工事
③石黒　毅

①㈱田澤園
②旧住友邸庭園整備工事
③岩下光彦



①㈱三橋緑化興業
②新横浜公園遊具広場・ドッグラン整備工事
③萩原　達

現場責任者表彰

神田健一　小島造園㈱

網本　薫　横浜緑地㈱

石黒　毅　相武造園土木㈱

岩下光彦　㈱田澤園

長谷川　稔　㈱新正園

樹木に魅せられて（第26回）

横浜市環境創造局公園緑地部 南部公園緑地事務所都心部公園担当

塚本 梓乃

風花に乗って横浜へ

私は群馬県の出身で赤城山を見ながら育ちました。

春先はまだ青白い色をしていた山が夏にかけては青がどんどん濃くなり、一番好きなのは秋に紅葉していくときで、小学校のころに写生の授業があるのはいつもこのころだったことをよく覚えています。冬はとても風が強いところなので、「風花が飛ぶ」といって晴れていても山に降った雪が風に飛ばされて市街地のほうでもちらつくことがありました。

今でも電車に乗って実家に帰るとき、山が見えてくると「帰ってきたな。」という気持ちになります。

樹木と暮らしている

横浜市に入庁して最初に配属になったのが青葉区の土木事務所でした。

青葉区はきれいな住宅街が多く、街路樹も多くて、もちろん公園もたくさんあるところです。特に公園は、田園都市線沿いに川崎の方から横浜に入ると急に公園の数が多くなるのが地図を見てもよくわかります。住宅地の中の小さな公園や片側車線の道路にも立派なケヤキが植えられていたりするので、街中でも住む人が大きな木のすぐ近くに暮らしているなと感じました。

自分は田舎の自然の多いところに住んでいたと思っていたけれども、近いところの自然という意味では青葉区の住宅地は実家のあるあたりよりもずっと自然が多いと思います。

横浜公園スタジアム側

新しい季節に心踊る心地で

先輩や造園業者さんに教わる

大学の時には樹木の勉強をあまりしてこなかったので、最初はケヤキとマテバシイの違いも定かでない状態で大変でした。剪定や草刈の時期など、ここの職場の先輩や公園班、造園業者さんにはいろいろなことを教えていただき、本当にお世話になりました。

大雪のときに枝が大きく折れたり、台風でヒマラヤスギやプラタナスなどの大きな木が根こそぎ倒れたりするのをはじめてみたのもここの職場でした。普段、剪定のときに人が上るような大きな枝や木がこんな風に折れたり倒れたりするんだと衝撃を受けました。身近な街路樹や公園の木であってもこのように危険が生じる場合もあることを実感しました。

土木事務所時代区民祭りで

歴史ある公園と関わる

その後、現在の職場である南部公園緑地事務所の都心部公園担当に異動になり、静かな住宅街の身近な公園から、今度は横浜のイメージそのものの都心部の観光公園が仕事場になりました。

歴史ある公園が多く、樹木も大きくて古いものが多く残っているので、それらの樹木とのかかわり方にも安全第一だった今までと違う側面が出てきました。その違いに戸惑うこともありますが、樹齢の古い木の管理のしかたを樹木医の先生に相談するなど、おかげでよりたくさんの人とお会いすることができました。

失敗を重ね多くの反省とそして前進

都心部ではバラの手入れや、花壇に花苗を植えることなどお花にかかわる機会が増えましたが、その中でも一番大きな仕事が毎年恒例となっている横浜公園へのチューリップの植え付けです。チューリップは横浜公園の位置する中区の花でもあり、69品種、約16万球のチューリップで埋め尽くされる様子はこの季節の風物詩です。

品種の選定から球根の発注、割付と植付までをしなければならないので当初は私にできるだろうか、ちゃんと咲かなかったらどうしようと不安でいっぱいでした。しかしたくさんの人に助けられ、無事に植え付けを終えられると、春の芽吹きや成長を見る毎日が本当にうれしくて幸せだと心から思います。

毎年新しいことに取り組む機会に恵まれる一方、失敗を重ねる毎日ですので、何かがひとつ終われば来年はもっとこうしたいという反省点でいつもいっぱいになります。

しかし、そんな気持ちをかかえて迎える新しい季節は不安よりわくわくした気持ちの割合の方が前よりも少し多くなっているとも感じます。

今後もそんな気持ちを大切に前に進んで行きたいと思います。

はままつフラワーパーク会場3／21～6／15
浜名湖ガーデンパーク会場4／5～6／15

花壇の写真展を開催

4月1日～30日
横浜市営地下鉄関内駅（湘南台方面ホーム）ホームギャラリーにて

チューリップまつり　横浜公園
4月11日・12日・13日
花　壇　展　山下公園
4月11日～5月6日

終わりの言の葉

45年ぶりの大雪が降りました。雪の重みで街路樹が倒れ電線を切断し停電が起きる。そんな事例があったようです。普段街路樹の維持管理に携わる我々としては他人事ではありません。

公園遊具や施設は年数を重ねると『老朽化』といわれ、街路樹は年数を重ねると『成長』といわれます。この成長が本当は『老化』ではないのか。そう考えると遊具や施設のように、感覚ではなく基準を定めた点検や植替・撤去が必要なのかも知れません。

（広報委員K）